

久野久(子) わが国第一流のピアニストとして名を轟かせるも、派遣先ウィーンでダメおされ、神経衰弱になり、自殺。

くのひさ
帝国大学始・1886 = 滋賀県膳所町馬場で、久野弥助の二女に生まれる。

帝国憲法発布1889 = 3歳：
早くに父が死去、

少女時代に近所の神社の石段で転倒して、片足に障害を負い、後に、ピアノのペダルがうまく踏めないほどだったという。

日清戦争始・1894 = 8歳：

日清戦争終・1895 = **9歳**：

母も死去したため、京都の叔父に引き取られ、叔父の勧めで自活のために邦楽を学ぶが、

邦楽の世界に限界を感じていた兄の勧めで

ピアノ国産化・1900 = 14歳：

田中正造直訴1901 = 15歳：上京し、**東京音楽学校に入学。初めてピアノを学ぶ。**

当初は成績も良くなかったが、猛練習を行って上達。生来病弱のため一年間休学したが、

日露戦争始・1904 = **18歳**：

日露戦争終・1905 = 19歳：

満鉄発足・1906 = 20歳： **本科器楽部を卒業し、研究科に進む。**

韓国併合・1910 = 24歳： **東京音楽学校ピアノ授業補助(助教授)となり、**

このころ、建築家中條精一郎家の娘百合子にピアノを教えており、のちに作家宮本百合子となった彼女は、小説「道標」のなかで、回想の場面に登場させている。

明治天皇没・1912 = 26歳：

大正政変・1913 = **27歳**：

21ヶ条要求・1915 = 29歳：自動車事故で一時重体となるが、

民本主義・1916 = 30歳：復帰。

ロシア革命・1917 = 31歳：***東京音楽学校ピアノ授業教官(教授)となり、日本女子大学校教授を兼任。**

本格政党内閣1918 = 32歳：***上野の奏楽堂でのリサイタル{ベートーヴェンの午后}で、ソナタ5曲を演奏して大成功を収めるなど、**

ベートーヴェンの曲を得意とし、**当時わが国第一流のピアニストとして名をとどろかせる。**

原敬首相暗殺1921 = 35歳：

大暴落・1922 = **36歳**：この頃の、東京蓄音器株式会社によるベートーヴェンの「ピアノソナタ第14番」が唯一の録音。

関東大震災・1923 = 37歳：***文部省の海外研究員として、ベルリンに、のちウィーンに派遣されたが、ヨーロッパの生活習慣にまったく無頓着な行動で、周囲の反感を買い、自身のピアノ演奏に関しても、エミール・フォン・ザウアーの教えを受けたとき、基礎からのやり直しを言い渡されたことに絶望、**

治安維持法・1925 = 39歳：***強度の神経衰弱にかかり、ホテル屋上から投身自殺を図り、没した。**